



No.40 2020.3.4

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

朝霧小CS 学校運営協議会 熱い議論が

2月21日（金）に朝霧小コミュニティ・スクール学校運営協議会が開かれました。今

年度の総括と新年度の方向性が主な議題でした。今年を振り返る中で、公開講座等もスタートし、学校が地域に開かれる中、せっかくの公開講座等含めコミュニティ・スクールのことやまちづくり協議会の活動があまり知られていないことが話題になりました。“学校を大事にしたいという思いはみんな持っている”、それだけにコミスクのこと、まち協の活動、学校の行事、自治会の行事等の情報を知ってもらい、いかにして参加してもらえるようにしていくかといった話に絞られました。

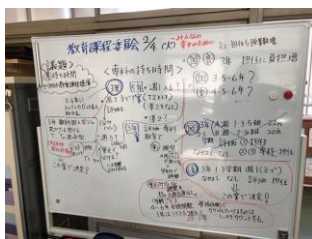
「回覧版が機能していない」、「回覧版が時代にあっているのか」、「回覧版等紙ベースの媒体では限界がある」、「SNS の活用を考えないといけない時代では？ でも個人情報・・・」といったことが熱く議論されました。最終的には「ロコミがやっぱり有効」ということになり、「ロコミで広げてもらえるには」という話で、来年度は「やりたいことがあるから人は集まる」「遊び心をもって」を、活動を計画する上での基本としながら、ロコミネットワークをつくっていかうという話になりました。こうした議論の中から方向性がでてくるのが大切なのだと改めて気付かされました。

また、今朝霧まちづくり協議会さんでは「あすあさ会（あすの朝霧を考える会）」というプロジェクトチームが立ち上がり、夏祭りのあり方・見直し等これからのまちづくりについて議論されています。少しずつ子どもたちも何らかの形で参加できるようになったらというビジョンを持たれているようですが、そうしたビジョンが広く共有されていくためには、対話が必要なんだろうなと感じました。



こんなものが 話し合いの見える化

学校運営協議会のために朝霧小校長室に入るとまず目に飛び込んできたのが、ホワイトボードです。そのホワイト



ボードには教育課程委員会の記録が残されていました。その記録に赤字で「みんなの幸せのために」と書かれていました。子どもも、教師も、保護者も、地域も幸せになるための教育課程をつくるために話し合いをするという方向性が示されているように感じました。何よりもどういった話し合いがされたかということが一目瞭然であり、こうした話し合いの記録をまとめられるというのがこれからの教師にはもとめられるのだろうなと思います。ファシリテートの技量が！先日お話をいただいた苦野一徳先生もプロのファシリテーターに入ってもらって、対話の質がすごく上がると言われていました。コミスクをすすめる上で、またこれからの授業の中でファシリテートする技術が求められるようになってくると考えています。

松が丘サミットをとおして学ぶ 松が丘小 CS 研修会

2月26日(水)に松が丘小でコミュニティ・スクールの研修会が開かれました。12月に開かれた松が丘サミットを通してコミュニティ・スクールを「松が丘の子どもたちの“学び”」の視点から捉えてみようという本所指導主事による新たなチャレンジでした。子どもたちの学びに視点をおくことにより、今後の社会に開かれた教育課程づくりをすすめていく上で「教育課程」そのものを考えるきっかけになったらと思っています。

松が丘の子どもたちの“学び”を捉える

- (1) 松が丘サミットを中核に据えた特徴的なカリキュラム
- (2) そのカリキュラムが育む子どもの姿
- (3) 今後の松が丘小に期待すること



(1) 松が丘サミットを中核に据えた特徴的なカリキュラム

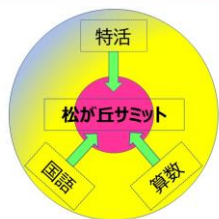


2019.12松が丘サミットにて

- ・子どもの提案を受容しながら、補完・修正を促す地域の方
⇒ 地域の方との継続的なつながり
- ・地域の方からもらった意見を原案に反映させ、擦り合わせようとする子どもの姿
⇒ 特別活動を軸に培われた力
- ・的確な“支援”をされる先生
⇒ 「信じて・任せて・支える」教員集団

“穏やか”な学習環境

(1) 松が丘サミットを中核に据えた特徴的なカリキュラム



松が丘小コア・カリキュラムの構造図

コア・カリキュラム (core curriculum)
児童・生徒の生活問題解決のための単元学習を中心課程とし、それを支える基礎的な知識・技術などを学習する課程として編成される教育課程。
最も重要かつ特徴的なことは、周辺の内容を学ぶ際、目的意識は常にコアに向かうことにある。つまり、周辺の内容を学ぶ必然性がより高まり、問題解決的な思考が働く。

(2) そのカリキュラムが育む子どもの姿



能動的忍耐

受動的忍耐

どこか頼もしい…
何となく自信ありげ…
適度に堂々としている…

キルパトリック

学びとは経験を通して、自ら探究・獲得していくべきものであると主張。デューイの思想の影響を受けた人物。

付随的反応

直接的に達成される成果以上の自尊心ややり遂げる意志が見られる

(3) 今後の松が丘小に期待すること

イェナプラン教育
□ 教科学習中心のブロックアワー (自立学習・基礎学習)
□ 教科横断的に学ぶ
ワールドオリエンテーション…「イェナプランのハート」と言われており、「不思議に思うこと、好奇心を抱くこと、学び方を学ぶこと、そして批判的に考えること」などを主眼に置いて学習する。
(2017, FutureEdu TOKYO)

コア・カリキュラム (core curriculum)
児童・生徒の生活問題解決のための単元学習を中心課程とし、それを支える基礎的な知識・技術などを学習する課程として編成される教育課程。
最も重要かつ特徴的なことは、周辺の内容を学ぶ際、目的意識は常にコアに向かうことにある。つまり、周辺の内容を学ぶ必然性がより高まり、問題解決的な思考が働く。

(3) 今後の松が丘小に期待すること



効率よく指導する

効率よく学ぶ

<教師個人の力量>

- ①カリキュラム・マネジメント
- ②単元構想力(地域に開く学習活動)
- ③子どもの学びをコーディネートする力

<学校として>

- ①形ではなく、理念や本質を伝え、持続可能に!
- ②発信し続ける。
- ③先生たち同士の対話を続ける。

(プレゼンスライド抜粋)

子どもたちに「未来の創り手となるために必要な資質・能力」を育てていくためには、「社会に開かれた教育課程」そのものを研究の中心にすえ、保護者・地域そして子どもも交えた対話を始めていくことではないかと考えます。ジチラボプラスというまちづくりの研修会で「これからの地域づくりは、今までの延長ではない。これからの時代に即した進化が必要だ!」という話が耳に残りました。地域を学校に変えてみると、「これからの学校づくりは、今までの延長ではない。これからの時代に即した進化が必要だ!」となります。時代に即した進化ができるかどうかこれから大きく問われていくのだろうと思います。

(文責: 北本)